

令和3年12月 西和賀町議会定例会

# 所信表明演述要旨

西 和 賀 町

おはようございます。

1月20日に西和賀町長に就任致しました、内記和彦です。

よろしくお願い致します。

この場をお借り致しまして、町政を進めるに当たりましての私の基本的考え方並びに取り組み方針を述べさせていただきます。

私は、西和賀町、町長として、公約として掲げましたことを実現していくため誠心誠意、努力して参る所存であります。

先の選挙におきまして、私は、政治、そして行政を進める上でなによりも理念、考え方、拘りが大事であると申し上げて参りました。

その理念、拘りとは「住民の皆様との対話を深めていく」ということであります。対話とは、単なる話のやり取りではなく、お互いをよく理解し合うとともに、そこからよりよい考え、英知を生み出す行為であります。対話なくして、政治・行政でよりよい成果は得られないとの考え方があります。一つひとつ積み重ねていく政治・行政が私の政治姿勢であり、基本姿勢であります。

私は、4年前の町長選挙では当選を果たすことができませんでした。4年間の時間を頂き、町内をめぐり多くの方々から地域、町に対する思いや、暮らしについてお話を聞く機会を得ることができました。西和賀はいいところで、ここで一生を過ごして生きていきたい、と話される方が多くいらっしゃいました。しかしながら、年を重ね高

齢になると、どうしても病気になったり、ちょっとしたことでケガをしたりすることが起こりやすくなります。一人暮らしや高齢者だけの世帯も多くなっておりまゝ。こうした状況で、生活上の心配ごとや不安も多くなっている現実がありました。

病気になったらどうなるのか、ちょっとしたケガでも一人暮らしだと直ぐに救急車を呼んだりすることができない、高齢者ではちょっとしたケガでも命とりになりかねなかったり、介護が必要な状態になったらどうするか、介護施設にもすぐには入れないようだ、雪も若い頃のように除雪できないなど、困りごとや心配、不安を持っている方のお話も多く聞きました。

こうしたことは、単に高齢者の方々だけの困りごとや不安、心配ではなく、中年世代や若い世代の町の将来に対する不安ともなっています。私の年代前後の世代は、今、介護の現場では担い手の世代ではありますが、その方々は、現場を知っているからこそ担い手不足に対する不安が大きく、心配も増している状況でありました。

子育てにつきましても、子供が少なくなったことや環境の変化等による不安や心配の声も頂いております。

こうした不安や心配に行政が丁寧に向かい合い、不安や心配の解消に、住民の皆様との対話を重ね解決を図っていかねばなりません。まずは、身近な課題解決に力を尽くし、西和賀町の将来に対す

る不安や心配の解消に努め、明るい未来の創造に努めて参ります。

身近な課題解決に取り組むとともに、町の発展に向け、長期的な視点、ぶれない見通しを持って、基幹産業の強化、人材確保につながる教育文化環境をつくっていかねばなりません。

基幹産業の強化においては、土地利用計画をつくり、西和賀が有している温泉や森林、河川といった自然資源や田畑、温泉街、文化施設、ダム、公共施設などの人工物に磨きをかけ、西和賀らしい景観・風景をつくりあげていくことで誘引力を高め、交流者人口や定住者人口を増やし経済の活性化を図っていくことが必要であると考えております。加えて、各地域で取り組まれている活性化対策についても支援を講じて参ります。

人材確保においては、基礎学力の向上を図り、受け継がれてきた郷土芸能や演劇などの文化、スポーツ活動の振興を通じた取り組みを進めて参ります。

温泉施設や公民館、旧学校施設などの公共施設・公共的施設については、活用やあり方について関係者の方々との十分な対話を通じて前向きな整備及び整理整頓を図って参ります。

また、地球温暖化、水や食料問題、新型コロナウイルスなどの感染症、気象災害など暮らしへの脅威を想定した町づくりが不可欠となっております。

多様化が求められている現代社会において、小さな自治体、町であるからこそ、女性や若い世代の政治参加、各自の力を発揮できる地域社会の構築が、町の存続にも係わるものであり、その進展にしっかり目を向けていかなければなりません。

情報化、デジタル化など社会経済環境の変化を見据えつつ、限られた財源の中で、優先順位、緊急性を考慮し、住民の皆様の福祉の向上に全力で取り組んで参ります。

最後になりますが、細井洋行前町長の町政発展に対するご功績、そして細井町長を支えられた高橋一夫前副町長のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、今後も町政の進展にご支援をお願いしたいと思っております。

議会議員の皆様並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の所信表明とさせていただきます。よろしく願いいたします。